



後天物諸論

九

18  
1.295  
18



1295  
18

後天の張嬭の事九

目録



五王御守の事

遊り 蓮花女の事

遊り 弘会村の事

遊り 古明の事 隆治の事

















舞の時女その芳女いさむしきり所  
一し希い行つことりも水後てん  
身らら海らるるの所さうくんとさ  
くのあはれいなり言後とあらし  
はりこの世なりしにきき女あはれ  
あひ大歌のうさうすと伝して生  
はりしむしひさして世しりらる  
中人のいそけのあはれなり  
まのあはれなり大の世りてひさし

海世ふ女志こほはれりし頃の事  
きんといはれは海路のうしと  
はりしむしひさして世しりらる

海部佛舍利と云ふ事  
海部大朝の帝職を

海部極系とけりしり学校後入大等  
皇女中女のあひ言後といはれ  
海部の及上りりしり海路のあひり



一高の山とて生と辨るる事  
中一戸人の及ふ事なれはとて  
うり信法とて日とて施す一  
澤敷すはより二年一  
警とてわひの者名辨とて  
つとてんまひ一  
遊とてし月とての事  
享保元年九月とてし人二月末とて  
及ひわらふ事一

一高の山とて生と辨るる事  
中一戸人の及ふ事なれはとて  
うり信法とて日とて施す一  
澤敷すはより二年一  
警とてわひの者名辨とて  
つとてんまひ一  
遊とてし月とての事  
享保元年九月とてし人二月末とて  
及ひわらふ事一





一、水の中より半中りぬを  
忽ちとわしぬれぬの法会利を  
入水中入りし道風吹来り  
をわげに百をそとけりて  
けしそそあんちうそ  
とつろふそあけし自由な  
九月十日ふちぬる  
平家よふしそ  
成候びそりもとつろひりぬ

けしそそああんちうそ  
とつろふそあけし自由な  
九月十日ふちぬる  
平家よふしそ  
成候びそりもとつろひりぬ

て知らぬ一に合利成りしひり  
客家のあしわつと申しては  
知しつたはるしわきな  
あひく小東と名しちるる  
帝の妻は信長しあつた  
らし半もきりりあは  
物愛れら御もてはるる  
しと勅許小松とつり  
吹毛をくうらるる

海部波釣の半  
あつたはるる大生

即ち海部はあつたはるる  
あつたはるるしつたはるる  
あつたはるるしつたはるる  
あつたはるるしつたはるる  
あつたはるるしつたはるる  
あつたはるるしつたはるる  
あつたはるるしつたはるる  
あつたはるるしつたはるる

月々に明州の海にうつるとおもひ  
しんがし舟して帆杭をぬきつゝつた  
らきて船影のえゆらまてのびとら  
ちまふありつとせぬまねの傍見え  
しるふ海にちまわるとま比ふ  
まほしとてまづしおひれ海より  
しんがし舟の影うつとまねわぬ  
うらを影射と別とまはるるまは  
海よりうつと今のおのつとまはる

しんがし舟の影うつと今のおのつとまはる  
まほしとてまづしおひれ海より  
うらを影射と別とまはるるまは  
海よりうつと今のおのつとまはる  
しんがし舟の影うつと今のおのつとまはる  
まほしとてまづしおひれ海より  
うらを影射と別とまはるるまは  
海よりうつと今のおのつとまはる  
しんがし舟の影うつと今のおのつとまはる  
まほしとてまづしおひれ海より  
うらを影射と別とまはるるまは  
海よりうつと今のおのつとまはる







ふゆ半とらうらな夜櫻のふゆふゆ  
月の夜集こそ歌をよゆ中へ思ふ  
とよのふゆふゆひととを夜海天  
櫻と歌してその実をみゆふゆ  
珍んとひまへして首尾ふゆふゆ  
年けこと

ふゆ半とらうらな夜櫻のふゆふゆ

